
改变世界がネトゲで

否憑 零華

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

改变世界がネトゲで

【Zコード】

Z2187BA

【作者名】

否憑 零華

【あらすじ】

俺達の世界にネトゲが上書きされた！？元の世界に戻す？
んなもんしるか！？ネトゲだつたらクリアするしかないだろ！
まずはレベル上げだ！…なん…だと？ステータスがバグっている…

処女作です、よろしくお願いします。

第零話 プロローグ前（前書き）

処女作です、よろしくお願ひします。

第零話 プロローグ前

空が紅く染まる世界で僕は沢山の人と出会った。

真っ赤な眼をした殺人鬼

「最低だよ、人類の中で最もな」

真っ青な瞳の科学者

「君は終わらせたいの？それとも、終わらせたくないの？」

不死で不滅の司書

「お前は結局何をしたかったんだ？」

そして、唯一無二の魔法使い

魔法使いは、相棒は僕に問う。

「あなたの、お名前は？」

僕は…

プロローグ

「De vise on」

俺の声に反応し、『デバイス』が起動する。
さつそくメールを確認し、返信しておく。

それから、こちらのエンカウント率も調べておく。

「はあ、今日は結構高いな」

エンカウント率とは、モンスターとあつ確立のこととで、
この確立が高いとモンスターに出会いやすくなる。
目線を『デバイス』から道の先に向けると…

「げつ」

モンスターがいた。それも大量に。

一つ一つあくと俺は一般人だ。残念ながら。なんの特殊能力も戦
闘能力の無いと自覚している。

だからモンスターと出会った時は…

「ふ」

見敵必殺？違うな、見敵逃走だ。俺は逃げ足だけは異常なまでに速
い。

生きていく上で必要なスキルだ。自然と身につく。

走ること約十分。ようやくモンスターの姿がなくなつた。

モンスターの大群から逃げて角をまがつたら、そこでまたモンスター
が現れるという悪循環。

久しぶりにガチで走つた。そのせいで、現在絶賛迷子中
そもそもモンスターなんかいるのが悪いんだ。つたく、実際に自分
が体験すると

面倒このうえない。『ソア』には悪いことしたな。いや、今は俺が

『ソア』な訳

なのだが。ああ、思い出す。あの部屋で行なつていた命の駆け引き、
手に汗握る

緊張感、知略を駆くすバトル、勝利の愉悦と達成感。…まあ、ネット
ゲな訳だが。

い、いや！？違うぞ諸君！！前の俺がネトゲ廃人であつたり、課金
で我が家

生活金を食いつぶしてなんか無…（。。。）ハツ！
ま、まあ、そんなことは置いておいて、早くわかる所まで出ないと、
さつきみたいにモンスターと会つちまつ…

十分後

「ふつざけるなああああああああああああ！」

ドドドドドドツツ

「ハツちくんなああああああああああああ…！」

絶賛追われ中

悪循環はまだ終つてはいなかつた！

「誰か助けてええええええええ！」

もー神様でも誰でもいいからお助けえええ！

『ライトニングブレイカー』

世界が、白に、染まつた。

Side out

Side order

白い閃光が放たれた跡には夥しい数のモンスターも亡骸と呆然と
している一人の少年。

閃光の主は遙か高みからそれらを眺めていた。
（…なんで逃げ回つていたんだ？まあ、これほど数がいつきに出た

のなら分かるが、

数体なら楽に倒せる雑魚モンスターだろう。）

彼はそれから興味を無くしたらしく、どこかへ去ろうとした時、ぞわつ

（なんだ！？この違和感、いや嫌悪感は）

嫌悪感がする方を見るとさつきの少年が危なげな眼をして立つていた。

その瞳は

紅くそまつていた。

（――！なんだあの目は？『分析』^{アナリヤス}）

分析魔法は対象の状態や大まかなステータスが分かる。

彼が使った魔法ではステータスのランク、称号を見ることができる。そして彼は今度こそ心の底から驚愕した。

（U n k n o w n！？ステータスが見えない！？隠蔽魔法の一種か！？いや、

隠蔽魔法が使えるぐらいならこの程度の雑魚共、一瞬で焼き払うだろ？。

それにしてもなんだこの感覚は！？）

見たことのない状況に戸惑っている彼に、少年の眼が向けられた。眼が合つた

！！！！！

（ヤバイヤバイヤバイ！？！？殺される！？一瞬もなく殺される！？！？だめだ、逃げなくては。でもどこへ逃げる？どうやって逃げる？無理だろ？。

アレからは逃れられない。最前線でも味わったことのない威圧感。絶対的な感覚。アレはまさに…）

死そのものだ

彼が動けない中、少年はゆっくりと、ゆっくりと

前のめりに倒れた。しかも頭から。

ごつちーーーん

さつきまで死ぬほどおびえていた彼でさえも思つた。

（あ、痛そう…。じゃなくて！なんだつたんだ？さつき感じたあの感覚は今はもう感じない。では氣のせい？ならばもう一度『アナリズム分析』）

もう一度彼が調べると、少年のステータスはあのモンスター達から逃げるのも納得なものになつていた。

（見間違いか？あせつていたのかもしれん。まあいい。ひとまず用はすんだから帰らせてもらおう。

そのまま彼は飛び去つていつた。

ここでは一つ大きな失敗をする。紅い眼をしてたときの少年のステータスの異常さにめが捕らわれ称号のほうには目がいってなかつたのである。紅い眼をしたときの彼の称号をみたのなら、帰らずここで始末していただろう。

紅い眼のときの彼の称号『幻想世界の殺戮者』といつ称号をみていれば。

Side out

Side out

…あつぶねえ

なんか上方からすつごに光がびゅーんつて来て、どかーんつてなつた。いや、マジでそんな感じ。やべえ、死ぬところだつた。それでも、さつきのプレイヤー、謝りもせずにいつたな。

ソレハスコシ「礼儀」ガナツテナインジャナイカ？

「まあ、いつか。あれだけの魔法が使えるんだから最前線で戦うプレイヤーなんだろ」

魔法。数年前では小説やアニメの中だけでの空想、妄想、幻想。

だが、今ではとても重要なものになつてゐる。

魔法だけじゃない。生活から趣味まで、全人類は一変してしまつた。

そして、なにより変わつたのは、生活に戦闘が組み込まれた事だ。安全を守る為には、モンスターを狩らねばならないし、食料も手に入れなければならぬ。

そして、元の世界に戻るにはあの塔を攻略しないといけない。

と、考へられている。

俺は元の世界に戻る必要は無いと思つがな！

この世界が、こんな幻想に包まれたのは約一年前のことだった。

第零話 プロローグ前（後書き）

処女作なのでご容赦ください、
ですが、意見などがあればビシビシ言ってください。
よろしくお願いします

プロローグ

2029年

連合国家U·S·E（Union·states·of·Empire）通称皇国家が出した最高優先プロジェクト

「Project·Restart」

皇国家皇帝「アイリアス・A·Z·アイルンハルト」が考える用に世界を改变するという

無謀ともいえるプロジェクト。

だが、皇国家は技術、軍事力ともに優れており、その力は皇国家を除く他国が総結集しても、余裕であしらえるほどだった。

と、同時に圧倒的な科学力で世界にその力を知らしめていった。

また、軍の練習用に作られたVRシステムは、一般家庭でも所有できるまで広まつてあり、生活からゲームまでありとあらゆる事をサポートしてくれるぐらいに高性能だった。

また、VRを使えるのは2000年代にはやつた家庭用ゲーム機などのように、据え置き機ではなく、体につけて持ち運べるような軽いものだった。

人々はそれを「Devise」とよんだ。

またデバイスは改造から自作まで許されており、コアなゲーマーなどは、自分用にカスタマイズしてつかっていた。

かくゆう主人公もネットゲが好きで自分のデバイスを改造したのだが、改造の方にはまつてしまつてネットゲを疎かにしてしまうほどだった。彼は幼少期から親が買つてきた機械仕掛けのおもちゃを分解して新しい物を創る事に長けていた。

その腕はネット上で「お前が神か」と言われるほどだった。

彼は自分が改造したデバイスをネットで売つて一儲けした。そしてその金を使いRMTリアルマネートレードをして最前線でも手に入りにくい極レア武器防具を装備した。

だが、所詮は初心者。そのへたつぶりはネット上で「装備と実力が合わないやつ『アンバラランサー』」という「一つ名がつけられるほどだった。

たしかに俺は一つ名が欲しかったが、それは厨一的ななかつこいいモノであつてこんな情けないモノではなかつた……と、オーナーの格好をした彼は語つた。

そんな彼にもお気に入りのゲームがあつた。世界で初めて発売されたVRMMORPG。

「Real World Online」まさに、とこつよくな前に、とくに変わり映えもない普通のRPG。剣と魔法のアクションバトル。特徴があるといえば、翼が生えて飛べるぐらいのシンプルなRPG。

だが、現実世界を完全再現したそのクオリティ、職業の多さ、果てしなく長いストーリー

それは全世界の人を虜にしてしまつほど魅力的だった。
残念かどうかはわからないがこのゲームには課金アイテムやRMT
が何故か

なかつたので彼は自分のレベルにあつた装備をしていた。

もちろん初期装備である。

と、思うが実は結構レアな装備を所持していた
もともと戦闘がそれほど得意ない彼は生産系の職業を手に入れた。
そして現實世界でも發揮したその物創りに関する才能のおかげで

装備もお金も結構持つていたが、戦闘をあまりしないのでレベルは
いまだ45。

一般プレイヤーが初めて一ヶ月でだいたい15レベル上がる事を考え
ると今月でちょうどプレイ一年になる彼がほとんど戦闘をしてない
のがわかる。彼に戦闘は向いてなかつた。

武器をつくる時、ほとんどのプレイヤーが素材を持ってきてくれる
ので

客の注文が来た時にぐらりしか装備は創らない。というか創れない。
生産スキルのレベルに自分のレベルが追いつけなかつたのだ。
ちなみに彼は生産系のスキルはすべてレベルが上限に達していた。
彼は積極的に戦闘しないが、それでも暇な時は自分で素材を探りに
行く。

だがほとんどの場合、常連の客とパーティーを組んで高レベルが行
く所に憑いていく

いわゆる寄生をしてレアな素材を全部もらつて自分用や展示用の武
器を創つたりした。

いつしか彼は、彼があこがれるような厨二的な二つ名を手に入れた。
「無双生産《アンリミテッド・メイド・ワーカス》」それが彼の一
つ名だつた。これを知つた時、彼は泣き崩れた。

やつたよ、遂に俺やつたよ、とうわ言のように繰り返す姿を見て客
が数人はなれていつたのは余談

そしてこれからも、彼は面白ろ可笑しくそんな生活を続けていつて、
いつしかゲームに飽きる。

そんな風に彼は、彼らは人生を送つた。

送るハズだつた。

だが、

2020年、一月十日、「Project - Re·Start」決行
事前の連絡もなくいきなり世界は

改变した。

彼は「Real World Online」のプレイ中だったが
急にログアウトした。

今までになかった事態に緊張したが、すぐに再接続したが、繋がら
ない。

「メンテナンス中」というアナウンスが帰つてくるだけ。
あれ？メンテナンスなんて今まであつたっけ？と彼が思い起にそう
とした瞬間

わいわいわい

突然体が、部屋が、端から砂みたいな光の粒になつて消失していつ
た。

彼は驚く前に、なぜか理解した。ああ、世界がリセットされるんだ
と。

自分は消去されるんだと、プロジェクトが始まつたんだと。
体が、存在が、自我がさらさらと端から消えていった。

彼が消える直前に感じたものは、どこかでみたような紅い空と、と
きどき聞いた、どこか機械質で、それでいて少しきびしげな声だつ
た。その声は確か、こんな事をいつていた。

『Welcome to the New World!』

プロローグ（後書き）

「意見があれば、よろしくお願いします。」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2187ba/>

改変世界がネトゲで

2012年1月5日19時52分発行